

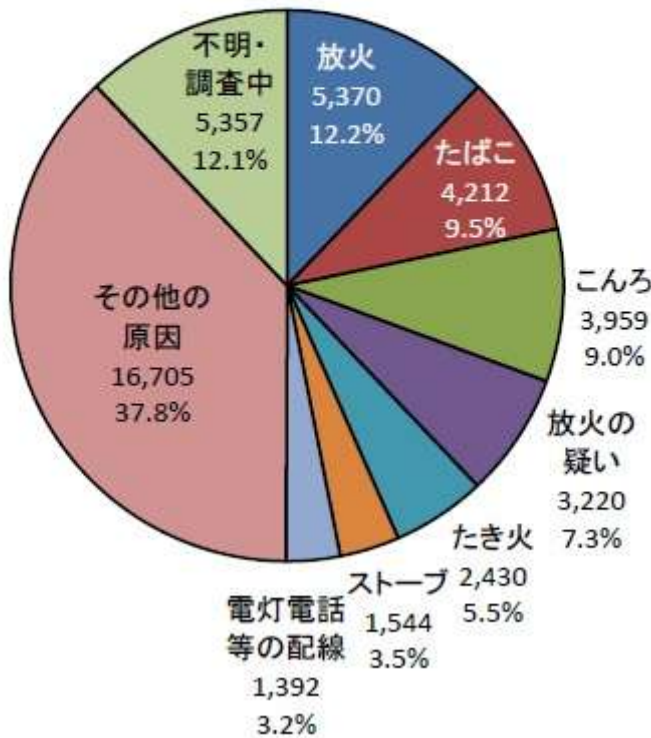


週刊 タバコの正体

新年おめでとうございます。2014年のお正月はいかがでしたか。元旦から一週間しかたっていないので学校の生活リズムに戻るには少し時間が足りないでしょうが、すぐそこに3年生は最後の学年末考査、2年生は修学旅行、1年生はインターンシップが迫っています。潔く気持ちを切り替えて学年の締めくりとなる3学期を頑張ってください。

さて寒さが厳しいこの季節、暖房器具は欠かせませんので火気を扱うことが多くなります。それに加え冬場は空気が乾燥しているので“火事”が多くなる時期なのです。

平成24年(1月~12月) 出火原因の内訳 (全火災44,189件)



左のグラフは消防庁の発表による平成24年度の出火原因の内訳です。日本全国で年間を通じ4万件以上の火災が発生しています。毎日100件以上も発生している計算になるのですが、その原因をよく見て下さい。

1位「放火」、2位「たばこ」、3位「こんろ」となっていますよね。じつはこの順番とその割合は昔からほぼ変わっていません。毎年、全火災うち約1割がタバコの火が原因となっており、平成24年度では4212件もあったわけです。単純計算すると毎日10件以上もタバコで火事が発生しているわけです。

しかも、住宅火災における死者数は、タバコが158人、放火が118人となっており、タバコによる火事の方が人命を多く奪っているのです。

タバコの煙は人々の健康を害し、何十年か後にガンなどを発症し人命を奪います。WHO(世界保健機関)の発表によるとその数は世界じゅうで600万人を超えています。そしてタバコは“煙”だけではなく、煙をだすための“火”も人命を奪っているのです。日本においては、タバコの“火”が年間4212件の家屋と158人の命を短時間で焼き尽くしているわけですから、その危険性を多くの人が認識しておかなければいけません。

産業デザイン科 奥田 恭久